

豊かな自然と現代美術に触れ

東京
おでかけ
日和

111

光が丘(東京都練馬区)は高層団地が立ち並ぶニュータウン。広大な公園には豊かな自然があり、現代美術に触れられる美術館も、都営大江戸線の光が丘駅周辺を歩いてみた。

駅を出ると、都立光が丘公園へと続くメインストリート「ふれあいの径」にいざなわれる。大樹のイチョウ並木に自がいく。看板によくと、東京・有楽町にあった旧都庁前の道路の街路樹で、樹齢は100年以上。1983年に光が丘団地への入居が始まり発展した、新しい街との調和が美しい。公園の中心部を歩いた。木々が生い茂り、芝生が広がる。野



【メモ】バードサンクチュアリは主に土、日、祝日の開園。観察舎にはスタッフが常駐し、光が丘公園の自然についての解説が受けられる。

生鳥類などの保護区「バードサンクチュアリ」の観察舎は、備え付けの望遠鏡で自由に鳥の観察が



バードサンクチュアリの観察舎
=東京都練馬区

できる。この日は、コガモの群れが目なだて昼寝し、アオサギが池

の中を歩いていた。警戒心を解いた鳥の姿に、心が和む。

園内には平和祈念碑も。「二」がかつて陸軍の成務飛行場で、特攻機が発進していた歴史を物語る。飛行場は戦後、米軍に接収されて軍人の家族宿舎「グラントハイツ」に。土地が全面過渡されたのは、73年のこと。戦争の爪痕が残る場所が、まっさい名前の街に生まれ変わったことを実感した。

公園を出て、団地周辺の住居街を歩く。なま、壁が施された威造り風の建物が目立ってきた。光が丘美術館だ。93年に、江戸時代から続く農家の当主だった成瀬海蔵守さんが「地域文化の向上に貢献したい」と開館。現代作家の日本画や陶芸を公開する。

光が丘美術館では木村善吾さんの作品「1994東京(空)」を展示



企画展では、日本画家木村善吾さんが新宿の高層ビル群と緑の群生を描いた「1994東京」を展示していた。6曲びょうべい豊の大作は、光が丘の高層団地と公園の風景とも重なり、都市のダイナミズムを感じてきた。



都立光が丘公園にある平和祈念碑

光が丘